

発行直前の状態は「RFC Queue」で確認

最新RFCの読み解き方

Text: 砂原秀樹

ウェブとメールで発行報告

前回に「Mobile IPv6はまもなくRFCになる」と紹介したが、なかなかRFCになったというアナウンスがないのできもきしている。気になって、RFCになるのを待っているインターネットドラフトのリストと状況を示した「RFC Queue」のウェブページ [RFC Queue](http://www.rfc-editor.org/queue/) を見たところ、7月17日付けでドラフト24が受け付けられているようなので、あとは時間の問題であると思い、一安心したところである(図1)。まあ、Queueに入っても差し戻しということはあるので予断はできないが.....。

RFC Queueの各文書は図1のように登録される。これらの文書は、種類別に分類されて並べられている。その種類は、IABドキュメント(IABが作成したドキュメン

ト)や、WG(ワーキンググループ)が作成している標準化トラックに乗っているRFC文書、WG以外が作成している標準化トラックに乗っているRFC文書、WGが作成している標準化トラック以外のRFC文書(Informational Experimental, BCP)、WG以外が作成している標準化トラック以外のRFC文書、RFC Editorのチェックを受けている独立登録された文書がある。また、それぞれの種類の中では登録順に文書が並べられている。

というわけで、今回は最新のRFCを眺めて見ることにしたい。新しいRFCが発行されるとIETFのホームページに掲載されるだけでなく、IETF-Announceメーリングリストに図2に示すようなメールが送られてくる。この例は、「RFC3593」のアナウンスメールである。「RFC2493」を置き換える

RFCであり、「AToM MIB WG」の成果であることなどが書かれている。またこのRFCは「Draft Standard」という状態であり、「draft-ietf-atommib-rfc2493bis-01.txt」をベースにしていることなどがわかる。

RFC番号の謎

なお、RFC3593とRFC2493のRFC番号の下2桁が同じなのは、関連するRFCを覚えやすくするために番号割り当ての際に意図的に行っているようである。実は、RFC INDEX [RFC INDEX](http://www.rfc-index.net/) を見ると、2003年9月8日時点でRFC3588からRFC3590まではまだ発行されていない。RFCになるのを待っているインターネットドラフトは、RFC Queueに入ってからある時点で番号を割り当てられている(いつの時点でこ



図1: RFC Queueの見方

日付とドラフトファイル名	2003/07/17 draft-ietf-mobileip-ipv6-24.txt
文書の状態	EDIT
著者	IANA
文書のタイトル	REF draft-ietf-mobileip-mip6-ha-ipsec-06.txt
ファイルのバイト数	D. Johnson, C. Perkins, J. Arkko Mobility Support in IPv6 Bytes: 396273

RFC Editorのウェブページ。ここで、RFCになるのを待っているインターネットドラフトの状態を確認できる。

「文書の状態」は、IESGに承認されてRFCとしての発行手続きを待っている状態(EDIT)、RFC EditorとIANAでの登録調整中(IANA)、関連インターネットドラフト(REF)などがある。

の番号が割り当てられるのかは、実は謎なのだが.....)

したがって、RFC3588などの文書は、番号が割り当てられているが、まだ発行には至っていない状況を示している。こうした仕組みを利用して一部のRFCにはある程度RFC発行の順番を維持しながら作画的に番号を割り振っているようである。たとえば、電子メール関係のRFCである「RFC821/822」は「RFC2821/2822」に置き換えられているが、これらのRFCと前後のRFCの発行日を見ると、このあたりに作為が感じられるであろう。こうした番号の割り振りは、RFCの番号を覚えやすくするために行われているようである。つまり、「RFC821/822」といった文書は長らく電子メール関係の基本的なRFCとして知られていたわけであるが、これを更新するにあたって覚えやすい番号を割り当てたということだろうと推測される。

なお、このアナウンスメールには、RFC本文を入手する方法なども書かれているが、メール自体がマルチパート形式になっており、発行されたRFC本文を入手する

作業を支援するようになっている。図に示したメールに続くパートではFTPでの本文入手、さらにメールでの本文入手を自動化するパートが続いている。

最新のRFCをチェック

ともあれ、新しいRFCが出てきたらタイトルなどを眺めつつ、興味に応じてチェックしていただきたい。現時点で最新(2003年9月発行)のRFCについて概観してみよう。表1に紹介するRFCのリストを示す。

RFCにはさまざまな種類の文書があり、日々新しいRFCが発行されている。興味があるRFCが発行されただけ目を通しておくようにする癖をつけておくといえよう。また、まもなくRFCになる文書は、最初に述べたとおりRFC Queueに登録されている。こうしたなかから関連するインターネットドラフトを探して見てもよいであろう。

[URL① http://www.rfc-editor.org/queue.html](http://www.rfc-editor.org/queue.html)

[URL② http://www.ietf.org/iesg/1rfc_index.txt](http://www.ietf.org/iesg/1rfc_index.txt)

図2：RFC発行のアナウンスメールの例

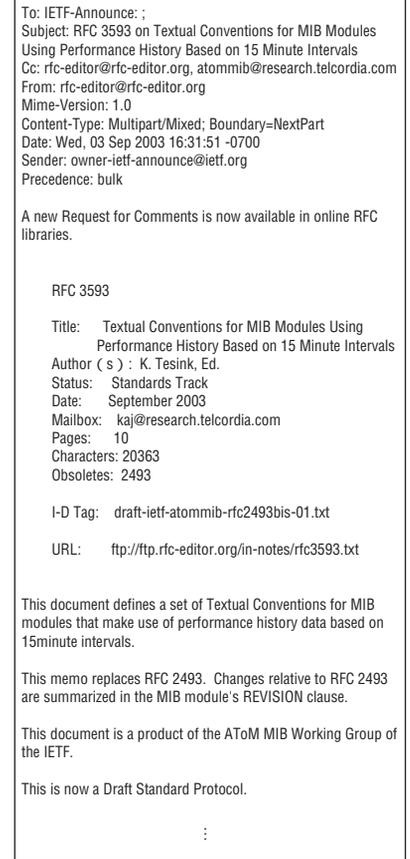


表1：最新のRFC一覧

RFC	内容	補足
3579 RADIUS (Remote Authentication Dial In User Service) Support For Extensible Authentication Protocol (EAP) . B. Aboba, P. Calhoun. September 2003. (Format: TXT=104469 bytes) (Updates RFC2869) (Status: INFORMATIONAL)	ダイヤルアップポートなどの利用者を認証するメカニズムであるRADIUSを、無線LANなどでの利用者認証などに用いられる「Extensible Authentication Protocol」(EAP RFC2284)に利用する方法を定義している。	RFC3579/3580のいずれもRADIUSを無線LANやイーサネットスイッチのポートを利用するユーザーの認証に用いる仕組みを提供しようとする試みである。
3580 IEEE 802.1X Remote Authentication Dial In User Service (RADIUS) Usage Guidelines. P. Congdon, B. Aboba, A. Smith, G. Zorn, J. Roese. September 2003. (Format: TXT=66136 bytes) (Status: INFORMATIONAL)	RADIUSをイーサネットスイッチや無線LANなどのポート認証のメカニズムである「IEEE802.1x」に用いるための方法を定義している。	
3583 Requirements of a Quality of Service (QoS) Solution for Mobile IP. H. Chaskar, Ed.. September 2003. (Format: TXT=22541 bytes) (Status: INFORMATIONAL)	Mobile IPを利用する場合において、ビデオストリームや音声ストリーム通信など、その通信路上でQuality of Services(QoS) を実現しなければならない場合が生じる。その際の要求事項についてまとめた文書である。	RFC3591/3592いずれも新しいデータリンクに対するMIBを定義した文書である。インターネットではSimple Network Management Protocol (SNMP RFC1175/RFC2578)を用いて管理情報を収集するメカニズムを提供しているが、ここで管理している情報を格納する形式を定義しているのがManagement Information Base(MIB RFC3418)である。MIBは、インターフェイスの種類やプロトコルごとに定義されており、新しいインターフェイスが登場したり、新たな機能がインターフェイスに追加されたりすると定義されるようになっている。
3591 Definitions of Managed Objects for the Optical Interface Type. H-K. Lam, M. Stewart, A. Huynh. September 2003. (Format: TXT=310815bytes) (Status: PROPOSED STANDARD)	ITU-TがG. 872として定義しているデータリンク「Optical Transport Network (OTN)」のMIBの定義を記した文書である	
3592 Definitions of Managed Objects for the Synchronous Optical Network/Synchronous Digital Hierarchy (SONET/SDH) Interface Type. K. Tesink. September 2003. (Format: TXT=143588 bytes) (Obsoletes RFC2558) (Status: DRAFT STANDARD)	Synchronous Optical Network/Synchronous Digital Hierarchy(SONET/SDH)と呼ばれるデータリンクのMIBの定義を記した文書である。	
3593 Textual Conventions for MIB Modules Using Performance History Based on 15 Minute Intervals. K. Tesink, Ed.. September 2003. (Format: TXT=20363 bytes) (Obsoletes RFC2493) (Status: DRAFT STANDARD)	MIBに格納されている性能履歴データ(Performance History Data)をテキスト形式で表現する方法について記した文書である。MIBではデータはバイナリー形式で格納されているが、これを人間に見やすく変換して表示する形式を定義したものである。	



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp